衣料管理情報

# ポリウレタン樹脂コーティングの脱落

ポリウレタン樹脂は、合成皮革やボンディング加工布、コーティング加工布など様々な素材に使用されており、外観上は異常がないように見えても、劣化が進行していることがあります。今回は、生地表面に施されたポリウレタン樹脂コーティングの脱落について紹介します。

監修／クリーニング綜合研究所

素材特性に注意

## 衣類の状態

クリーニングから戻ってきたら、衿回りの一部が脱色したとの申し出があった。

## 原因

生地表面をコーティングしているポリウレタン樹脂が空気中の水分などにより経時劣化したことに加え、着用による摩耗などで損傷し、クリーニング処理を行うことで脱落したことによるもの。

事故部が衿回りの一部であることから、着用による汚れが樹脂の劣化を促進していた可能性も推測される。

## 事故の防止対策

ポリウレタン樹脂の経時的な劣化は避けることができないため、抜本的な防止策はない。

ポリウレタン樹脂は空気中の水分による加水分解などにより、通常2～3年で劣化することが明らかになっており、クリーニング事故賠償基準ではコーティング品の平均使用年数を2年としている。

生地表面にポリウレタン樹脂のコーティングが施されたコートの衿

## ポリウレタン樹脂加工製品全般の注意事項

コーティング加工は、織物や編物の基布にポリウレタン樹脂などを塗布して皮膜を作ったもの。ポリウレタン樹脂加工製品全般に対しては次のような配慮が求められる。

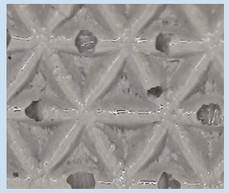
- 取扱表示などを参考に、洗える製品かどうかを確認する（水洗い、ドライクリーニングのいずれも不可を表示している製品がある）。
- コーティングに使用されている樹脂は組成表示の対象になっていない。ただし、バックコーティングやボンディングなどの製品には、組成表示にポリウレタンが高率で表示されている場合がある。

また、バックコーティングは透湿防水やダウンの吹き出しを防止するために使用されていることが多い。

- 汚れが付着しやすく、かつ着用摩擦を受けやすい生地の折返し部分、袖口、裾回り、衿回り、脇下などに異常がないかを確認する（汚れが樹脂の劣化を促進し、着用摩擦で剥離、脱落等が生じていることがある）。
- べとつきなどの兆候があるものは剥離等の生じる可能性が高いためクリーニングできないことを伝え、お断りすることが望ましい。
- 製品を製造してから2年以上経過している場合には購入の時期に関係なく劣化が進行しており、クリーニング処理で剥離等が生じる可能性のあることを伝える。

衿回りの一部が脱色したようになっている

**顕微鏡写真**

| 事故部 | 正常部 |
|---|---|
| |  |

事故部はコーティングが一部脱落している。周辺の樹脂には亀裂が入り、弾力の低下が確認できる

■品　　名…コート
■素　　材…表　地：ポリエステル 100%
　　裏　地：ポリエステル 100%
■取扱表示…
■処理方法…石油系溶剤によるドライクリーニング、タンブル乾燥、ウールプレス仕上げ

● 「衣料管理情報」は全クリ連ホームページから PDF をダウンロードいただけます。
全クリ連 HP　https://www.zenkuren.or.jp 「お知らせ」→「衣料管理情報」

全国クリーニング生活衛生同業組合連合会制作
機関誌「クリーニングニュース」より